

平成21年度大平成21年度大津市事務事業評価（二次評価）事業仕分け結果

班 別	第3班	時 間	13:01 ~ 13:47
事業番号	20	所管部課名	産業観光部 農林水産課
事業名	「おおつのやさい・花き」ブランド化推進事業		
事業仕分け結果	(4) 市実施 内容・規模見直し		
内 訳	(1) 不要	—	
	(2) 国及び県実施	—	
	(3) 市実施 現行通り	—	
	(4) 市実施 内容・規模見直し	5名	
	(5) 市実施 民間委託	—	
	(6) 民営化（NPO、地域団体含む）	—	
<p>【事業仕分け判定に係る意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会運営補助と成果が繋がらない。金は行政が出し、農家が実施している。現状を他の方法でフォローできないのか。 ・一定の役割はあると考える。主要3品目以外の品物を手当てして欲しい。 ・今後、B規格品も含めた場の提供が必要になる。 			

事業仕分け発言要旨	
コーディネーター・評価者	事業説明者・補助者
	・事業概要説明（省略）
・（コーディネーター） 事業名が地産地消の事業に変わって、新規が「米粉普及促進事業」ということでよいか。	・そうである。
・主要3品目にかかる補助は。	・大津市からの補助はない。出荷協議会の活動費に対する運営補助である。
・製粉機は誰が購入しているのか。	・JAに対し4分の1の補助を出している。
・今年度のみか。	・製粉機は今年のみである。
・「魅力ある農業の振興を図る」とあるが、具体的な市の関わりは。	・JAと滋賀県と協力し、大津市の特性を考慮して対応していく。月1回のペースで検討会も実施している。市民にとって求められているものは何か。市民が「大津の米や野菜はよい」と思っただけのことが使命である。
（コーディネーター） ・市の主要3品目を売り出したいという意思はどこで伝	・ロットが大きく規格が揃わないと卸売市場で売れな

わるのか。	い。生産量が多いことが必要である。
・ロットが少ないことに対する施策は。	・ロットが多い順に卸売市場、グリーンファーム、朝市、無人販売所となる。それで売り先が決まってくる。
・市民の需要に対して3割しか供給できない現状について費用対効果もあわせ、どう考えているのか。	・市街化農地に係る税負担、中山間の獣害被害もある中で協力して良いもの売っていきたいと考えている。
・そうした中で農業振興をどうしていくのか。	・農業振興地域で農業を守っていくことを基本としている。守りたいが守りきれない状況もある。
(コーディネーター) ・市内を対象範囲としたものか。事業名が変わって地産地消でよいのか。	・ ・地元産の農作物を求める消費者の動向と生産量から地産地消に方向転換した。
・品評会で農業者の意欲は高まるのか。 ・市民の立場でそれが良いとは限らない。規格外でも安く売れたら良いのでは。	・質も高まり、励みになる。 ・選ばれるものは高く売れる。
(コーディネーター) ・規格外(商品)も安く売る方向になっているのか。	・先に述べたようにロットの大きさ、規格などにより、概ね卸売市場、グリーンファーム、朝市、無人販売所の順に販売されており、できるだけ価格を確保できるよう努力している。
・運営費補助を毎年支出しなければいけないのか。	・期限があるものではないし。経営基盤も弱い。
・頼っているのでは。	・頼っていない。労賃すら出ない状況である。
・だから40万円を支出しなければならないのではない。	・ないとだめになる。甘えではない。
(コーディネーター) ・協議会に対する補助金を個々に振り分ける方が効果的では。	・所得保障的な施策になるのではないかと。日本は所得補償制度がない。消え入る農業を支援することが使命である。 ・大津市の平均的な1戸当たりの農地面積で米を作ったら、売り上げは70万円ほどしかない。一方、資材費や農機具代などの費用が70万円以上も必要であり、労賃すら出ない現状である。この厳しい現状を理解して頂きたい。
・その70万円の収入を上げる必要があるのでは。	・上げる施策を講じている。品質のいいものは高く売れる。しかし、限界があることを理解して欲しい。
・ブランド化によりどれだけ売れているのか。	・記載のトン数だけ売れている。

<ul style="list-style-type: none"> ・支援することで生産者のメリットになればいい。 	<p>—</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業に対する支援は。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会、朝市など広範囲である。金銭補償は考えていない。
<p>(コーディネーター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場出荷量が減ったことはプラスと思った。個人農家の出荷が増えることは成果では。市場の出荷量を指標としておりわかりにくい。地産地消からいえばこの指標がすべてではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人農家についてもJA等と議論している。他の指標も検討していく必要はある。ブランド化事業としての位置づけからこの指標となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・儲からない、価格が低いのは農作物の評価基準の問題では。ニーズを分析し、購買者目線を。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農作物価格が低いのは、構造的な問題であり、いくら購買者目線になっても限界があることを理解して欲しい。